

(4) 2016年 熊本地震の事例（液状化被害の事例）

2016年4月14日及び4月16日に発生した熊本地震では、2回にわたる震度7の強い揺れに伴い、震源断層となった布田川・日奈久断層に近い低地や阿蘇谷などの地下水位の高い地域で被害が発生した。液状化が発生した地盤の大部分は、埋立地ではなく内陸部の河川沿岸地域（川の氾濫地域）などの自然堆積地盤であった。また、砂利の採取跡地においても多くの液状化が発生した。液状化による被害は、外構の沈下・傾斜、戸建住宅および店舗の不同沈下、建物の基礎杭の抜け上がりやそれに伴う埋設管の破損などの建物に関する被害や、電柱被害（沈下）が顕著であった。



図-1 道路上への噴砂の堆積（熊本市）



図-2 基礎杭の抜け上がりによる段差の発生（熊本市）



図-3 建物の傾斜・沈下（熊本市）



図-4 電柱の沈下（熊本市）